

KAGOME

Story
2021

会 社 案 内



食を通じて社会課題の解決に取り組み、 持続的に成長できる強い企業をめざして

カゴメの創業は1899年。農業を営んでいた創業者蟹江一太郎がトマトの栽培に挑戦し、その発芽を見た日にはじまります。以来私たちは120年にわたり、日本の食を見つめ、新しい食のあり方を提案してまいりました。

当社は、2025年のありたい姿を「食を通じて社会課題の解決に取り組み、持続的に成長できる強い企業」と定めています。農業から生産・加工・販売と一貫したバリューチェーンを持つ世界でもユニークな企業として、健康寿命の延伸、農業振興・地方創生、そして世界の食糧不足の問題に取り組んでまいります。

そして今、私たちは「トマトの会社から、野菜の会社に」というビジョンを掲げています。当社は現在、野菜をさまざまな商品でご提供していますが、日本人の野菜摂取量は目標値に対してまだまだ大きく不足しています。だからこそ私たちは、トマトはもちろん、さまざまな野菜の価値を活かした幅広く革新的な商品を次々とお届けし、人々の健康に貢献することによって、持続的な成長につなげていきたいと考えています。

カゴメの企業理念は「感謝」「自然」「開かれた企業」です。

私たちの原点である自然に根差し、地域社会・お客さま・お得意先さま・栽培農家の皆さま・株主さま・従業員など、世界に広がるあらゆるステークホルダーの皆さまと手を携え、価値ある商品やサービスをお届けできるよう、たゆまぬ努力をしてまいります。皆さまのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

カゴメ株式会社 代表取締役社長

山口 聡



野菜をとろうキャンペーン



カゴメのあらゆる資源を総動員して、日本の野菜不足の解消をめざす

カゴメの使命は、野菜の力で健康寿命の延伸に貢献することです。私たちは、長期ビジョンに「トマト」の会社から「野菜」の会社になることを掲げ、野菜の栄養を手軽に・おいしく摂取できる商品の開発や野菜の機能性研究、健康価値の情報提供に取り組んでおります。当社は日本の野菜不足をゼロにすることをめざし、2020年1月より「野菜をとろうキャンペーン」を開始しました。1日の野菜摂取量の目標は350g(*1)ですが、現状は約290g(*2)であり、あと60g足りていません。そこで「野菜をとろう あと60g」をスローガンに、多くの企業や団体とも協働して、野菜摂取意欲を高めるさまざまな施策を展開しています。この活動の目的は、①野菜不足を自覚してもらうこと、②なぜ野菜が必要なのか理解してもらうこと、③おいしく上手なとり方を知ってもらうことです。そして、肉食・中食・外食など、あらゆる場面で生活者と野菜の接点を増やしていくことで、野菜摂取量の向上を図ります。当社はこの「野菜をとろうキャンペーン」の活動に全力で取り組み、社会全体で「野菜をとろう!」という機運を高めてまいります。

(*1)「厚生労働省 健康日本21」が推奨する1日の野菜摂取目標量は、350g。

(*2)平成22年～令和元年国民健康・栄養調査(厚生労働省)での日本人の平均野菜摂取量は約290g。

野菜摂取推進プロジェクト

「野菜をとろうキャンペーン」にご賛同いただいた多くの企業や団体と連携し、従来なかった接点や訴求で「野菜をとろう!」という機運を高めていきます。



野菜マエストロ検定

カゴメオリジナルの「野菜マエストロ検定」で、全社員を野菜の伝道師に育成し、野菜の魅力やおいしいとり方を伝えていきます。



カゴメ株主 野菜アンバサダー

約18万人の株主さまを対象に「カゴメ株主 野菜アンバサダー」を募集し、野菜検定に合格された方にはアンバサダーとして、ご家族やご友人に野菜の魅力を広めていただいています。



ベジチェック®体験会

野菜摂取量を推定する機器「ベジチェック®」を活用して、野菜が足りているかを把握していただく体験会を実施していきます。



生活者と野菜との接点づくり

生鮮野菜・飲料・食品など野菜の価値を活かしたさまざまな商品で、野菜摂取の需要を喚起し、野菜不足の解決に貢献していきます。



食による 健康寿命の延伸

野菜の力で
日本の未来を切り開く

現代人の野菜不足や塩分過多の食生活を改善するために、野菜が持つ機能価値を商品でお届けします。また、野菜摂取の重要性を説き、野菜のおいしい食べ方や手軽に摂取できる方法を提案することで、健やかな毎日を応援していきます。



機能性表示食品の商品が、続々発売

カゴメは、トマトを中心に野菜の栄養素の研究を長年続け、さまざまな効果効能を検証しています。リコピンに善玉 (HDL) コレステロールを増やす働きが報告されており、これによりリコピンを含む「カゴメトマトジュース」(265g、720ml、200ml)と「リコピン コレステファイン」を2016年機能性表示食品として発売。さらに野菜由来のGABAに高めの血圧を下げる働きが報告され、2017年には「カゴメ野菜ジュース」を機能性表示食品として発売しました。トマト由来のGABAにも同様の報告がされており、2018年からは「カゴメトマトジュース」の機能性表示を追加。さらに2020年「野菜生活100」で初めての機能性表示食品「野菜生活100 Care+ (ケアプラス)」を発売。今年「野菜一日これ一本」でも初めての機能性表示食品「野菜一日これ一本 Plus (プラス)」を発売しています。



健康サービス事業の展開

企業にとって従業員の健康管理は、重要な経営課題として関心が高まっています。カゴメの健康事業部では、企業や自治体向けに健康増進をサポートするサービスを開発・販売しています。食と健康のプロである当社の管理栄養士によるプロジェクトチーム「野菜と生活 管理栄養士ラボ」には、管理栄養士資格保持者71名*が在籍し、その一翼を担っています。野菜摂取の重要性やメリット、メソッドを伝えるセミナー(集合・オンライン)、eラーニング、野菜摂取量を推定するベジチェック®のレンタルやリース、レコーディングアプリの提供などを通して、食生活の改善や野菜摂取をサポートします。

*2021年1月時点

野菜生活 管理栄養士ラボ



健康セミナー(集合型・オンライン型)



カゴメ「野菜と生活 管理栄養士ラボ」のメンバーが講師となり、食生活改善、減塩、メタボケア、フレイル対策、女性の健康といったテーマで、野菜摂取の大切さや食生活改善のコツと技を楽しくわかりやすく伝授します。

チーム対抗!ベジ選手権®4週間チャレンジ



アプリへの毎食の野菜摂取量入力や、ベジクイズへの回答で獲得したポイントを、チームで競い合うことで、楽しく食生活の改善をめざすプログラムです。社内のコミュニケーション向上施策としてもご利用いただけます。

ベジチェック®(レンタル・リース)



センサーに手のひらを数十秒押し当てることで、野菜摂取レベル、推定野菜摂取量を表示する機器です。その場で結果がわかる簡便さが特徴で、健康診断や食事指導、企業や自治体の健康イベントなど、さまざまな場面でご利用いただいています。

eラーニング教材



場所や時間を選ばずにオンライン受講ができるサービスです。3名のユニークなキャラクターから好きな講師を選べたり、理解度によって講師の反応が変化したりするなど、楽しみながら学び続けられる仕掛けが各所に組み込まれています。

農業振興・ 地方創生

農業を支え

地域の持続的成長に貢献

超高齢化や労働人口の減少が急激に進む地域では、農業生産基盤の脆弱化が問題となっています。カゴメは日本の農業の発展が、地域の活性化につながると考え、日本の農業の成長産業化に貢献していきます。



カゴメ野菜生活ファーム富士見

2019年4月、「農業・ものづくり・観光」が一体化した体験型「野菜のテーマパーク」をコンセプトに、「カゴメ野菜生活ファーム富士見」を長野県諏訪郡富士見町に開業しました。八ヶ岳の雄大な自然を背景に、野菜と豊かにふれあいながら、農業や食、地域の魅力を体験できる施設です。県内・県外から多くのお客さまにご来園いただき、地域や野菜の魅力を感じていただいています。



生産者や自治体と連携し、 地域の農業と健康を応援

カゴメは、全国の自治体などと協定を結び、その地域の農産物を使用した商品の展開やレシピの共同開発、食育やトマトの栽培指導など、地域の農業振興や健康づくりに積極的に取り組んでいます。

【カゴメが地域で締結している協定】

17府県6市1町27協定

※2021年3月末時点



農家の負担を減らし、 ジュース用トマト生産量の拡大へ

農業従事者の高齢化が進み、栽培中止や規模が縮小される生産者が増える一方で、当社の国内ジュース用トマトの必要量は増加しています。当社ではその解決策の一環として、農業機械メーカーと共同で加工用トマト収穫機「Kagome Tomato Harvester」(KTH)を開発。農家にとって最も負担が重い収穫作業の機械化に取り組んでいます。また、JA全農いばらきとトマトの運搬を委託している美野里運送倉庫株式会社(茨城県小美玉市)と連携し、KTHと作業者をセットで派遣する収穫委託も拡大しています。

「野菜生活100季節限定シリーズ」 が日本を元気に

地域の農産物を全国で消費する「地産全消」活動の核となる商品「野菜生活100季節限定シリーズ」は、今では年間10種類以上を順次発売しています。カゴメはこれからも、新たな野菜や果物の開拓やコラボレーションによって、地域の農業さらには健康長寿をサポートしていきます。

野菜生活100季節限定シリーズ(2020年4月~2021年3月)



食育 支援活動

食への興味・関心を育み、
楽しい食体験を提供

近年、健康志向の高まりや食習慣の多様化とともに、食育の重要性が見直されています。カゴメは1964年以来変わらず、子どもたちに食に関する情報や楽しい体験機会を提供するなど、さまざまな食育支援活動に取り組んでいます。



カゴメ劇場の開催と トマトの苗プレゼント

親子で正しい食習慣を考えるきっかけとして、「食」をテーマにしたミュージカル『カゴメ劇場』を毎年夏休みに開催し、1972年の初演以来、延べ364万人の親子を無料でご招待しています。また、全国の小学校、幼稚園、保育園に、カゴメトマトジュース用トマト「凛々子(りりこ)」またはミニトマト「こあまちゃん」の苗と学習教材を無償配布しています。私たちはトマトの栽培を通して、子どもたちが「命への関心」と「感謝する心」を育み、野菜が好きになることを願っています。



放課後NPOアフター スクールとの食育活動

子どもたちの野菜嫌い克服と将来の野菜不足ゼロをめざす連携子育てプロジェクト『おいしい! 野菜チャレンジ』を、放課後NPOアフタースクールと協働して全国で開催しています。2019年は対面型で全国50カ所、2020年はオンライン双方型で全国60カ所にて、野菜のヒミツを学ぶ体験型授業を実施し、多くの評価をいただきました。2021年は昨年に引き続き、オンライン双方型と訪問対面型の2つのプログラムを全国の子どもたちにお届けします。



野菜を好きになる保育園 「ベジキッズ」

乳幼児とその保護者に対し、野菜を好きになることをコンセプトとした保育園を2019年に開園しました(東京都中央区)。現在は、従業員と地域の方にご利用をいただいております。乳幼児期に形成された食習慣は、成長後にも影響するといわれており、基本的な保育とともに「五感で野菜とふれあえる食育」を実践しています。さまざまな体験を通して野菜に親しみ、野菜とともに育む環境を0-2歳に提供し、野菜のおいしさ、楽しさ、大切さを伝えていきます。



環境 保全活動

カゴメ環境マネジメント
3カ年計画

近年の地球温暖化や海洋汚染による生態系への影響など、環境問題は世界的な社会問題となっています。カゴメは、環境パフォーマンスの改善や社会貢献できる課題を盛り込んだ「環境マネジメント3カ年計画」を策定しました。



カゴメ プラスチック方針 および施策

カゴメは2019年に自然環境との共生をめざし、環境負荷の低減を目的とした「カゴメ プラスチック方針」を策定しました。2030年までに紙容器飲料に添付している石油由来素材のストローの使用ゼロを目標に掲げ、2021年2月には、紙ストローを採用した季節限定「野菜生活100」を当社オンライン限定で発売しました。さらに飲料ペットボトルにおいて、樹脂使用量全体の50%以上をリサイクル素材、または植物由来素材とするなど、環境に配慮したプラスチックの利用に順次切り替えていきます。



紙容器飲料のプラスチックキャップを植物由来素材に

賞味期限を「年月日」から 「年月」表示へ

食品ロス削減や物流・倉庫・小売などの流通関係者の負担軽減のために、2020年10月より、賞味期間が360日以上のお家庭用飲料商品(缶・ペットボトル)を対象として、賞味期限表示を「年月日」から「年月」に順次変更していきます。カゴメは2030年までに、食品廃棄量を半減(2018年比)させることを目標としており、今後も賞味期限表示の見直しを進めるとともに、賞味期間の延長についても取り組んでいきます。



「野菜生活ファーム」で 生物と共生する農場を開始

野菜のテーマパーク「カゴメ野菜生活ファーム富士見」に隣接する畑で、生物多様性保全に配慮した農業を開始しました。畑のまわりには、農業に役立つ生きものと共生するための工夫を施し、鳥や昆虫、草花に関するクイズを設けるなど、来場者に生物多様性の大切さへの理解を深めていただきます。将来的には、多様な生物との共生と持続可能な農業のモデルケースをめざしています。



ドロバチが子育てに使用する「竹筒マンション」

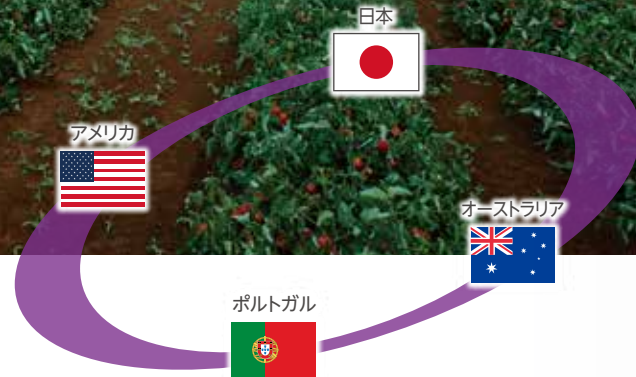


トカゲやてんとう虫の住みかになる「石づみハウス」

垂直統合型 ビジネス

種子から食卓まで、
ワンストップで価値を創造

カゴメが保有するトマトの遺伝資源は約7,500種。その種子から、土づくり、栽培、収穫、製造、そして最終商品に至るまで、安全かつ安心という価値を確実にお届けするためのビジネスモデル。それが、カゴメの強みであり、世界的にもユニークな「垂直統合型」ビジネスです。



水平方向：世界各地の主な拠点

需要創造	商品が持つ価値をお客さまに伝え、需要を創造する価値伝達活動。	
商品生産	よい原料と技術の最適な組み合わせで、原料の価値を最大化する製造工程と品質管理。	
一次加工・調達	自社基準を満たした高品質の原料のみを調達し、おいしさを損なわないための一次加工を実施。	
栽培	指定品種による契約栽培と農業指導、ハイテク菜園での生鮮トマトの栽培。	
品種開発・種苗生産	自社保有の農産物の遺伝資源を用い、交配法で有用品種を創出し、競争力のある種苗を生産・供給。	
研究開発	自然の恵みの農産物の価値を最大化し、健康寿命の延伸に貢献するための一貫した研究開発。	

↑
垂直方向：種子から食卓までワンストップ

畑は 第一の工場

よい原料はよい畑から
それが商品づくりの哲学

「畑は第一の工場」というものづくりの思想のもと、創業時から続けてきた契約農家との栽培に取り組み、トマトジュースの原料の国内産地拡大を進めながら、契約栽培で培ってきたノウハウや実績を海外からの原料調達にも活かしています。



フィールドマンと呼ばれる農業のプロがいます

カゴメは創業以来、よい原料はよい畑から生まれるという思いを変えることなく、安心・安全な原料を調達するためにトマトなどの「契約栽培」に取り組んでいます。日本の農業との共存共栄を図る「契約栽培」は、まず作付け前に農家の方々と全量を買入れる契約を結びます。その後、フィールドマンと呼ばれる担当者が契約農家の畑を巡回し、カゴメ独自のきめ細かな栽培指導をはじめ、トマトの生育状態にあわせて的確なアドバイスを行っています。「契約栽培」を行うことで、農家の方にとっては廃棄の無駄や価格変動という不安がなくなり、高品質の原料を作ることに専念できます。同時に、高齢化する日本の農家において経験の浅い若手農家の育成にもつながります。



世界80カ国以上で種子育苗事業を展開

カゴメは2013年11月、トマトと野菜の非遺伝子組み換え種子を自社開発し、アメリカを中心に80カ国以上もの市場で販売事業を展開している米国の種苗会社ユナイテッド・ジェネティクス社を子会社化しました。これにより、種子を起点としたカゴメのトマト事業は世界中に拡大。種子から原料、加工、販売までワンストップで価値を創造するカゴメ独自の垂直統合型ビジネスと世界各地に広がる水平方向の拠点を武器にグローバル化がますます加速します。



生鮮ビジネスの 拡大

最先端の技術を集結し、
生鮮事業で農業の成長産業化

生鮮トマト事業では、高リコピントマトを中心に
生鮮売場を活性化し、新たなトマトの品種開発
を進めています。さらに、ベビーリーフの販売
エリアや商品ラインナップを拡充させ、「トマトの
会社から、野菜の会社」に事業領域を広げます。



グローバル 展開

「トマトならカゴメ」を
世界共通語に

2050年には90億人に達するともいわれる
人口の増加に伴い、世界の食糧やトマトの需要
も大幅な伸びが予測されます。カゴメはトマト
をはじめとした食を通じて、世界が抱えるさ
まざまな課題の解決に貢献し、世界No.1の
グローバルトマトサプライヤーをめざします。

大規模ハイテク菜園を 全国で展開

1998年より本格的にスタートした生鮮
トマト事業。大型菜園で生鮮トマトを栽
培して、全国の量販店などに販売してい
ます。大型菜園では、温室内の温度や湿
度、灌水などをコンピュータで自動制御。
外界との接触が少ないため病虫害の
リスクを抑えることもできます。また、
立体的な仕立て方により、単位面積当
たりの収穫量を最大化できるなど、均一
な室内環境と均一な管理作業によって
年間を通して安定した出荷量と高単収
を実現しています。菜園では、クリーン
エネルギーの活用やCO₂対策、節水、
生態系への配慮など、環境にやさしい
トマト栽培を実現しています。

ベビーリーフの販売を強化

カゴメがトマト以外で初めて発売した野
菜がベビーリーフです。ベビーリーフは
野菜の幼葉の総称です。えぐみが少なく
やわらかな食感が特徴で、サラダやいろ
いろな料理のトッピングとして、生のま
まおいしくお召し上がりいただけます。
2017年からは山梨県北杜市で「高根
ベビーリーフ菜園」を稼働。供給体制と
販売を強化するとともに、新たなメニュー
を提案しています。さらに、2019年夏
には「洗わないでそのまま使える国産
ベビーリーフミックス」を発売。今後も、
毎日の食事に手軽に野菜をとり入れるこ
とのできる魅力的な商品をお届けします。

ケールとダイコンから生まれた 新野菜「ケーリッシュ®」の開発

2019年10月、健康成分スルフォラファン
(*1) を多く含む新しい葉野菜「ケー
リッシュ®」(*2) の販売を開始しました。
「ケーリッシュ®」はケールとダイコンを掛
け合わせた新しい葉野菜です。生で食べ
るとダイコンやルッコラのような辛味が
あり、加熱調理すると濃い旨味が引き立
ちます。生食はもちろん、スープ・煮物・
炒め物などの加熱調理メニューにもむい
ており、スルフォラファンのとり方の選択
肢を広げます。「ケーリッシュ®」を広める
ことで、お客さまの健康で豊かな食生活
に貢献していきます。

(*1)食品中ではSGS(スルフォラファン)として存在し、体内で分解されるとスルフォラファン
に変わります。(*2)「ケーリッシュ(品種名:サンテ
ヴェール48)」は、カゴメ株式会社の登録商標です。



グローバルフードサービスの 取り組み

私たちは、グローバルに展開する大手
フードサービス企業に対して、主にトマト
加工品を販売しています。また、より一層
高まる「低糖・低塩・低脂肪」ニーズに対
して、カゴメは「トマトと野菜の栄養成分、
機能性研究」などの成果を活用し、「食に
よる健康」の実現をめざします。さらに、
アジア領域や、南米、中東など新しい
領域での顧客の開拓や事業機会の獲得
にも積極的に取り組んでいきます。

スマートアグリ事業を 新設

カゴメは、2020年4月から日本電気株
式会社(NEC)と5年をかけて共同開発
した、AIによる加工用トマトの営農支援
事業を開始しました。センサーや衛星写
真を活用して、トマトの生育状況や土壌
の状態を可視化するサービスと、熟練
栽培者のノウハウを習得したAIが営農
アドバイスをするサービスを販売します。
加工用トマトの生産は、生産者の減少や
環境負荷の低減への対応など、多くの
課題を抱えています。まずは欧州のトマ
ト一次加工メーカーにむけて事業を展開
し、将来的には日本市場での実用化も
視野に入れ、国内産地で本事業の展開
検証を実施していく予定です。

アジアへの 野菜飲料の輸出

BtoC事業においては、アジアへの野
菜飲料の輸出版売に注力しています。
日本製への関心や健康志向の高まりを
背景に、アジアへの輸出版売は、香港、
中国、モンゴル、シンガポールなど7地域
に広がり、成長しています。2018年7月
には日清食品有限公司との合併会社
「KAGOME Nissin Foods Hong
Kong Co.,Ltd.」を設立し、香港・マカオ
における野菜飲料市場の開拓および展開
が進んでいます。今後も、アジアにおける
野菜飲料の価値浸透と飲用の習慣化に
よる需要拡大を図り、将来的にはカゴメ
の中核事業となるよう育成していきます。



営農指導員がデバイスをを使い、生産者に指導している様子



世界中の人たちに、 おいしさと健康をお届けするために

日本で培ってきたノウハウをもとに、世界各地を調査し、最適な栽培地を吟味して、
世界中の国々で事業を展開しています。

KAGOME AGRI-BUSINESS RESEARCH AND DEVELOPMENT CENTER, UNIPessoal LDA (ポルトガル)
Since 2016,
農業を中心とした研究開発活動
バリューチェーンにおける新事業開発

Holding da Industria Transformadora do Tomate, SGPS S.A. (ポルトガル)
Since 2007,
トマトペーストやピザソース等の
トマト加工品の製造・販売

KAGOME
カゴメ株式会社
Kagome Co., Ltd.

United Genetics Turkey Tohum Fide A.S. (トルコ)
Since 1987,
種子の生産・販売、および
育苗事業

Vegitalia S.p.A. (イタリア)
Since 2003,
地中海野菜の加工・冷凍・販売

Kagome Senegal Sarl (セネガル)
Since 2017,
加工用トマトの栽培・
仕入れ・販売

Kagome Foods India Pvt. Ltd. (インド)
Since 2016,
トマト加工品の製造・販売

United Genetics Holdings LLC (アメリカ)
Since 1990,
グローバルにトマト、野菜および
フルーツの種子開発・生産・販売

Ingomar Packing Company, LLC (アメリカ)
Since 1983,
トマトペースト・ダイストマトの
製造・販売

Kagome Inc. (アメリカ)
Since 1998,
米国での大手レストランチェーン向け
業務用トマトソースの製造・販売

Kagome Foods, Inc. (アメリカ)
Since 2007,
各種業務用ソースに加え、マーガリンや
他の植物油ベースの製品の製造・販売

Taiwan Kagome Co., Ltd. (台湾)
Since 1967,
調味料および飲料の製造・販売

Kagome Nissin Foods Hong Kong Co., Ltd. (中国)
Since 2018,
飲料の販売

Kagome Australia Pty Ltd. (オーストラリア)
Since 2010,
加工用トマトの生産および
トマト加工品の製造・販売



カゴメの歴史

1899年の創業以来、「自然の恵みである農産物の価値を活かして、人々の健康に貢献したい思い」を商品に込め、生活者の皆さまにお届けしています。その歩みは、時代のニーズに応えるためにこれまでなかった商品を開発しつづける「技術革新」の歴史でもあります。



1908 トマトケチャップウスターソースの製造開始

1933 トマトジュース発売

1966 **世界初** プラスチックチューブ入りケチャップ発売

1992 キャロット100シリーズ発売

1995 野菜生活100発売

1998 アンナマンマ発売



2001 生鮮トマト(こくみトマト)販売開始

2004 野菜一日これ一本(杯)発売

2006 植物性乳酸菌ラブレ発売

2014 サラダ野菜発売

2015 GREENS発売

2017 「野菜と生活管理栄養士ラボ」立ち上げ

野菜と生活管理栄養士ラボ



2019 ベジチェック®の開発

カゴメ野菜生活ファーム富士見開園



1899
創業者 蟹江一太郎
西洋野菜の栽培に着手



1903
トマトソースの製造に着手
(現在のトマトピューレー)

1906
東海市荒尾町西屋敷に工場を建設、トマトソースの本格的生産に入る

1963
社名を「カゴメ株式会社」と改称、トマトマーク制定



1967
台湾カゴメ設立
初の海外進出

1972
「カゴメ劇場」スタート

1978
名古屋証券取引所市場第1部に上場
東京証券取引所市場第1部に上場

1988
KAGOME U.S.A.INC.設立

2003
「自然を、おいしく、楽しく。KAGOME」をブランド・ステートメントとする



2000
企業理念(「感謝」「自然」「開かれた企業」)を制定

2005
株主数10万人突破

2010
カゴメオーストラリア設立



事業紹介

多彩なラインナップで
野菜の価値をお届けします

時間がない、野菜が苦手など、その理由はさまざまですが、日本人の野菜不足は年々深刻化しています。カゴメは、手軽においしく野菜を摂ることのできる商品を広くお届けしたいとの思いから、飲料や食品、業務用だけでなく、通販や農事業まで事業領域を広げ、1,000種類以上の商品ラインナップで、その問題解決に全力で取り組んでいます。さまざまな形で野菜をお届けし続けることで、日本の野菜不足を解消し、健康寿命の延伸に貢献していきます。

飲料事業

野菜果実ミックス / トマト100% / 野菜100% / キャロット100% / 乳酸菌



食品事業

トマトケチャップなど / トマト調味料 / ソース / パスタソース
おかず調味料 / レンジ調理食品 / 鍋用つゆ



農事業

生鮮トマト / 野菜 / 農産加工品 / 家庭用園芸商品



業務用事業

業務用常温商品 / 業務用冷凍商品



通販事業

飲料 / 食品 / サプリメント



数字でみる KAGOME

カゴメの特長や実力を
言葉だけではなく、さまざまな
数字を中心にをご紹介します

創業 122年

1899年、トマトという当時日本ではなじみのなかった西洋野菜の栽培に挑戦し、のちに加工に取り組んだのが、カゴメの歴史の始まりです。以来、畑を原点に野菜と向き合い、新しい食を提案し、今年123年目を迎えました。



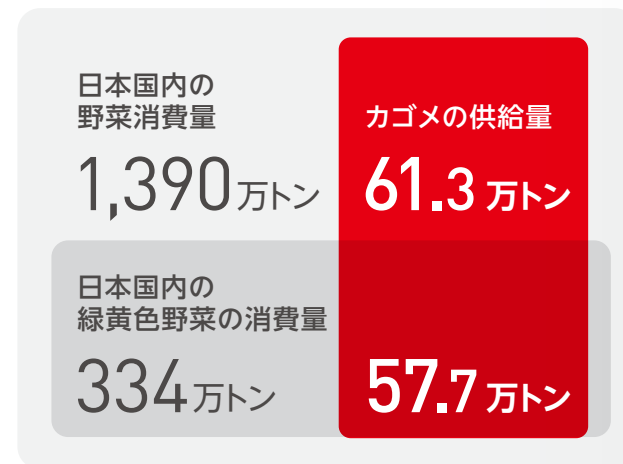
トマトの遺伝資源 約7,500種

イノベーション本部では、約7,500種ものトマト種子をはじめとする豊富な遺伝資源を保管し、データベース化。これらを活用し、遺伝子組み換え技術を用いずに加工用と生鮮用トマトの品種開発をしています。
※登録済品種約70種

カゴメの 緑黄色野菜供給量 国内の17.3%

日本の緑黄色野菜消費量の17.3%、野菜*消費量の4.4%をカゴメが供給しています。

*淡色野菜+緑黄色野菜



出典：VEGE-DAS(カゴメ野菜供給量算出システム)、農林水産省「食料需給表」R1年度概算値

食育支援活動

364万人



子どもたちの「食」への興味を育み、健やかな成長を応援するカゴメの「食育支援活動」。「食育」という言葉が一般的になるずっと前の1964年、全国の幼稚園に保育に役立つ紙芝居や絵本を配り始めたのが、そのはじまり。1972年からは親子に食べ物や健康の大切さを伝えるミュージカル「カゴメ劇場」がスタートし、のべ364万人を無料でご招待しています。さらに、全国の約1割にあたる小学校や保育園にカゴメトマトジュース用トマト「薫々子」、またはミニトマト「こあまちゃん」の苗と学習教材を無償で提供する活動も続けています。

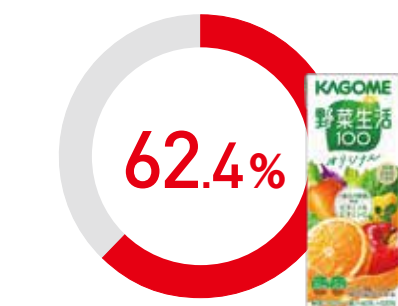
国内シェアNO.1

トマトケチャップ



出典：インテージSRI+/期間：2020年1月-12月/金額ベース
対象エリア：全国/対象業態：スーパーマーケット+コンビニ
エンスストア+ドラッグストア+ホームセンター

野菜果実ミックスジュース



出典：インテージSRI+/期間：2020年1月-12月/金額ベース
対象エリア：全国/対象業態：スーパーマーケット+コンビニ
エンスストア+ドラッグストア+ホームセンター/その他：ド
ライ+チルド、野菜果実ミックスジュースカテゴリー

トマトジュース



出典：インテージSRI+/期間：2020年1月-12月/金額ベース
対象エリア：全国/対象業態：スーパーマーケット+コンビニ
エンスストア+ドラッグストア+ホームセンター/その他：ド
ライ+チルド、トマトジュースカテゴリー

※画像は代表的商品です

株主数

17.9万名

個人株主比率
99.5%

「開かれた企業」を企業理念のひとつに掲げるカゴメは、2001年に「ファン株主10万人構想」にむけた取り組みをはじめ、2005年9月に10万人を突破しました。株主さまの声に積極的に耳を傾け、商品開発やイベントの開催に活かしています。

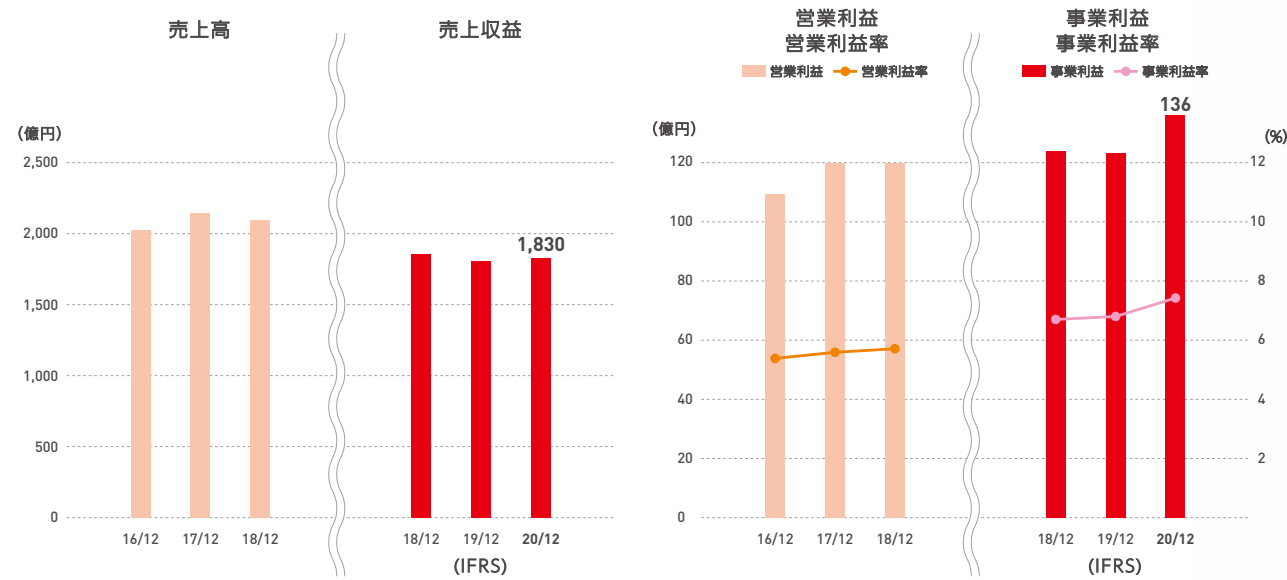
※2020年末時点179,340名



株主優待商品

会社概要

連結決算財務パフォーマンス



※2019年12月期決算より国際財務報告基準(IFRS)を適用 18年度IFRSは読替数値(概算)

会社概要 (2020年末現在)

創業 1899年(明治32年)

設立 1949年(昭和24年)

本社 愛知県名古屋市中区錦3丁目14番15号
TEL (052) 951-3571 (代表) FAX (052) 968-2510

東京本社 東京都中央区日本橋浜町3丁目21番1号 日本橋浜町Fタワー
TEL (03) 5623-8501 (代表) FAX (03) 5623-2331

資本金 19,985百万円

従業員数 2,684名(連結)

事業所 本社、東京本社、1支社、8支店、6工場、
イノベーション本部、東京ラボ

事業内容 調味食品、保存食品、飲料、その他の食品の製造・販売、
種苗、青果物の仕入れ・生産・販売

主な連結子会社

響灘菜園株式会社

いわき小名浜菜園株式会社

カゴメアクシス株式会社

カゴメアグリフレッシュ株式会社

Kagome Inc.

United Genetics Holdings LLC

Vegitalia S.p.A.

Holding da Industria Transformadora do Tomate, SGPS S.A.(HIT)

台湾可果美股份有限公司

Kagome Australia Pty Ltd.

CSR情報のご案内

<https://www.kagome.co.jp/company/csr/>

2025年のありたい姿と社会課題

食を通じて社会課題の解決に取り組み、
持続的に成長できる強い企業になる

カゴメが取り組んでいる社会課題

健康寿命の延伸

国内加工食品では、野菜の供給を増やして健康寿命の延伸を目指します。

農業振興・地方創生

国内農事業では、野菜の産地・加工拠点の開発を通して農業振興・地方創生を支援します。

世界の食糧問題

国際事業では、グローバルなトマトの垂直統合型ビジネスで世界の食糧問題に取り組みます。

長期ビジョン

2025年までに

トマトの会社から野菜の会社に

- 様々な素材・カテゴリー・温度帯・容器・容量で「野菜」を取り扱うユニークな存在になります。
- トマトから野菜へと事業領域を広げ、モノだけではなく、コトも提供する会社になります。

2040年頃までに

女性比率を50%に(社員から役員まで)

- 多様な視点で事業活動を推進し、多様化する消費者のニーズに対応します。
- 男女ともにいきいきと働き、高い生産性を発揮する強い企業になります。

企業理念

時代を経ても変わらずに継承される「経営のこころ」



感謝

私たちは、自然の恵みと多くの人々との出会いに感謝し、自然生態系と人間性を尊重します。

自然

私たちは、自然の恵みを活かして、時代に先がけた深みのある価値を創造し、お客さまの健康に貢献します。

開かれた企業

私たちは、おたがいの個性・能力を認め合い、公正・透明な企業活動につとめ開かれた企業を目指します。

ブランドステートメント

社会やお客さまへの約束



自然を

自然の恵みがもつ抗酸化力や免疫力を活用して、食と健康を深く追求すること。

おいしく

自然に反する添加物や技術にたよらず、体にやさしいおいしさを実現すること。

楽しく

地球環境と体内環境に十分配慮して、食の楽しさの新しい需要を創造すること。

共助のための 取り組み

地域との共助を
大切に

カゴメが大切にしている行動規範のひとつ「共助」の精神で、自助や公助だけでは解決が難しい社会問題や自然災害に対して、地域社会とともに取り組んでいきます。



カゴメみらいやさい財団の設立



食育活動や子どもの貧困対策などに取り組む団体などを支援することを目的に、2020年10月1日に「一般財団法人カゴメみらいやさい財団」を設立しました。本財団は、「子どもに笑顔を、地域に笑顔を」の理念のもと、助成金（年間総額3,000万円）の給付を中心とした支援を通して、健全で豊かな心を育む社会の実現に貢献していきます。



ホームページで詳しい内容をご紹介します。 [みらいやさい財団](#) 🔍 検索

東日本復興支援活動での農業人育成

カゴメは、東日本大震災の被災者の方々や復興に携わるの方々との「共助の絆」を結び、農業復興、地域再生を担う人材育成、こころとからだの健康再生に重点を置き、さまざまな活動を続けています。2012年からは、東北における将来の農業人育成のために、被災地の農業高校での授業支援をスタートしました。教材となる加工用トマト苗を配布し、トマトの路地栽培、調理、加工および販売体験などの社会体験授業を提供することで、東北復興を担う未来の農業人の夢を応援しています。



みちのく未来基金による 震災遺児の進学支援



2011年カゴメは、カルビー株式会社・ロート製菓株式会社とともに、宮城県仙台市に「みちのく未来基金」を設立し、震災遺児の進学の夢を支援する活動を開始しました。東日本大震災によって親を亡くされた子どもたちの高校卒業後の高等教育進学のために、全国から寄附をいただき、入学金と卒業までに必要な授業料の全額（年間上限300万円）を返済不要の奨学金として給付。震災当時お腹にいた子どもが大学(院)を卒業するまで、長く支援を続けていきます。基金では、奨学金の給付だけでなく、心のケアも重視しており、みちのく生（基金で支援している奨学生）同士が親睦を図るイベントの開催や、進学後も1年に1度、面談の機会を設けるなどしてフォローしています。



ホームページで詳しい内容をご紹介します。 [みちのく未来基金](#) 🔍 検索



カゴメ株式会社

本社 / 〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦3丁目14番15号 TEL.(052)951-3571 (代表)
東京本社 / 〒103-8461 東京都中央区日本橋浜町3丁目21番1号 日本橋浜町Fタワー TEL.(03)5623-8501 (代表)



ミックス
責任ある木質資源を
使用した紙
FSC® C022938

